

継続の力

各種のイベントが中止や延期になるニュースが続いて約 2 年が経ちます。今年は、ようやく少しずつではありますが動き出しているようです。とは言え、まだまだ人数制限や規模の縮小などの状況が続いています。「青少年のための科学の祭典」全国大会も例外ではなく、2020、2021 年は開催されませんでした。同様に地方大会も中止が多く見られ、開催されていてもオンライン大会などが目立ちました。私たちの富山県大会は、開催地の教育委員会や共催団体と幾度も協議を重ね、なんとか対面方式を確保しつつ、県外からの参加についてはオンラインなども併用しながら継続して開催をしています。

私たちは過去 2 年間、実行委員会において大会を開催してよいか悩み続けながら議論を重ねてきました。その結果、科学の祭典を足踏みさせてはいけない、という結論に達しました。会員からは、一度、科学の祭典を止めると、再開するにはこれまで以上のエネルギーが必要である。また、多くの仲間たちが集まってくると、長い年月が必要になってくるだろう。という意見が多く集まりました。

よく、「継続は力なり」と言います。私たちの団体「おもしろ科学実験 in 富山」は、小中高大の先生方や企業、一般の方々の有志が集まって運営している自主的な団体です。その目的は、新しい科学の実験教材を子供たちに提供し、青少年の科学好きを増やすことです。当然、一人や二人の力では、これほどの規模で科学の祭典を運営することはできません。毎年、多くの実験ブースやワークショップ、サイエンスショーが展開できるのは、本会の主旨に賛同してくれる多くの仲間たちの協力があってこそです。各々が実験を持ち寄り、それが数十に集結し、そこに多くの子供たちが集まってきます。一人の講師が展開できる実験には限りがあります。この科学の祭典は、多くの講師がそれぞれの専門分野の科学実験を展開します。毎年、何百人もの子供たちが目を輝かせながら集まってくると、面白い実験やワクワクする体験を沢山体験したいと期待しているのだと思います。

さて、今年の高岡大会がいつもの年と同じように開催できるのは、第 1 回大会から途切れることなく継続して開催してきた実績があったからだと確信しています。昨年と一昨年は規模を縮小しての開催となりましたが、例えばオンラインによる実験ブースの進行方法や実験ブースの消毒、子供たちとの距離・接し方の在り方など、様々なノウハウを蓄積することが出来ました。

実行委員会では、これまでの経験を基に今年の高岡大会を科学の祭典の分岐点と位置付け、次の時代に向けて、科学の祭典の新しい在り方を模索していきたいと思っています。何よりも主人公は、会場に足を運んでくれる子供たちです。この子供たちが自ら社会を切り開いてくれるよう、私たちは科学の観点から支援していきたいと考えています。どうか、子供たちが健やかに成長し、科学の視点を持って新しい世界を創造してくれることを願っています。

「'22 青少年のための科学の祭典」高岡大会・
第 29 回「おもしろ科学実験 in 富山」実行委員会
会長 木下 正博（富山県総合教育センター）